

総評

理科と国語がたいへん難しかったため、5教科合計の平均点も低くなりました。

道コンのような試験は、受験して結果を見ただけでは半分の価値しかありません。自分のミス傾向や弱点に気づき、間違えた問題の直しをして、克服してこそ受けた価値があるのです。また、正解した問題であっても、解説を読んで自分のやり方とはちがう解き方や考え方に気付くこともあります。新たな解き方や考え方を身につければ、得意分野をさらに伸ばすこともできます。

入試では、不注意によるミスをどれだけ減らし、得意分野でどれだけ得点を積み上げられるかが重要なポイントになります。今回の問題を存分に活用して、得点力アップに役立ててください。

国語

非常に難しい出題となりました。

㊦の漢字の読みは、「委嘱」が難しかったようです。問五(1)のグラフの読み取りについての記述問題では、主語が曖昧な解答が多く見られました。㊦の問二(2)と問六の得点率が低くなりました。問二(2)は、書き抜く部分が傍線部の直前・直後になかったため、得点率が低くなったようです。書き抜く部分を探す際に、問題文や空欄の前後から、ヒントとなる言葉（今回であれば「やり方」など）をとらえてから探すと、その部分を見つけやすくなります。㊦は、問一と問四の得点率が低くなりました。問一は、「それほど」の意味をとらえられていない解答が多くありました。㊦の問五は、一番最後の問題で、複数の資料を関係づけながら解く長文記述であったため、全体の中で得点率が一番低くなりました。

数学

標準的な難易度の出題でした。㊦の小問集合や㊦の式の計算はよく得点出来ていましたが、後半㊦の平面図形や㊦のデータの活用は正答率が伸びませんでした。

㊦の問1(2)など、規則性を文字を使った式で表す問題は、出題パターンに慣れ、様々な問題に対応できるように練習しましょう。㊦問3は、健太さんの見通しが解法のヒントになる問題です。三角形の面積が等しくなる条件を考え、関係する座標や直線の式を導きましょう。㊦では、等しい2角とその根拠、合同条件の記述が予想に反して低い正答率となりました。与えられた証明の前後関係から説明すべき内容を読み取りましょう。

㊦は、近年入試でも頻出の箱ひげ図からの出題でした。四分位数や四分位範囲といった語句を覚えるだけでなく、その意味をしっかりと理解しましょう。

社会

標準的な出題でした。

地理分野は、㊦の問1(2)の地球を一周した場合に通る大陸を書く問題の得点率が低くなりました。また、㊦問2、㊦問4の資料問題の得点率も低くなりました。資料問題では、最も大きい数値や最も小さい数値に着目しましょう。

歴史分野は、㊦問5(3)や㊦問4(1)の年代並べかえ問題、㊦問2のザビエルが上陸した場所を地図から選ぶ問題の得点率が低くなりました。年代に関する問題は、入試ではよく出題されるので、教科書や参考書などの年表を利用して歴史の流れをつかむようにしましょう。また、歴史分野では場所を選ぶ問題も出題されるので、重要なできごとが起こった場所は地図で確認しておきましょう。

理科

難しい出題でした。

㊦は基本的な内容の出題です。間違えた問題や、迷った問題はしっかりと復習して、基礎固めをしておきましょう。㊦の植物の分類は、問1の正答率が低かったものの、全体に得点率は低くありませんでした。観察の結果や会話文などをしっかりと読み取れた人が多かったようです。㊦の水溶液は、実験2が複雑に感じられたかもしれませんが、それぞれの物質について1つずつ考えるのがポイントでした。㊦の電気回路は、問2(2)・(3)がとても難しかったようです。並列回路と直列回路の電圧・電流の関係をよく確認してください。㊦も苦勞した人が多かったと思います。問2を間違えた人は、湿度や露点に関する問題を繰り返し演習して、得点力アップを目指しましょう。

英語

標準的な難易度の出題となりました。

㊦のリスニングは問題によって得点率に差が開きました。問4は今春に行われた北海道の公立高校入試のような出題形式でした。この問題では英文の指示を正確に聞き取り、適切に表現する力が求められます。指示を聞き逃さないようメモをしたり、自分の書いた英文を見直したりするなど、集中して問題に取り組みましょう。

㊦、㊦は返却された答案をよく見て、自分がどこで間違えたのか確認しましょう。㊦の長文問題は会話文での出題でした。「誰がどう考えているか」「誰が何をしたか」など英文を正確に読み取る力が求められました。

㊦の英作文で減点となった場合は、冠詞、三単現、複数形などの不備がないか、しっかりと見直しておきましょう。